

2019年5月1～2日②

読売、毎日、日経、産経、東京、赤旗、琉球新報、沖縄タイムス
メーデー、野党・政局、軍備、沖縄、代替わり、核

「きょうは労働者の日」 全労連メーデー

東京新聞 2019年5月1日 夕刊



労働環境改善を訴える合唱

を披露する労働組合員ら＝東京都渋谷区の代々木公園で

全労連の第九十回中央メーデー式典が一日、東京都渋谷区の代々木公園で開かれ二万八千人（主催者発表）が参加した。あいさつに立った小田川義和議長は「元号が変われば富の偏在は改まり、過労死するまでの働き方でも賃金低下する異常は解消されるか」と祝賀ムードにくぎを刺した。

中央のステージには「なくせ貧困・格差」「8時間働けば暮らせる社会を！」などのスローガンが掲げられ、労働組合の代表者らが長時間労働の是正などを訴えた。参加した目黒区の木村新一さん（85）は「天皇が代わっても、われわれ庶民の暮らしは苦しいままだ」と指摘。豊島区の野本祐一さん（75）は「今日は労働者の日。開催できて良かった」と話した。

全国労働組合連絡協議会（全労協）もこの日、日比谷野外音楽堂（千代田区）でメーデー式典を開催した。（宮尾幹成）

しんぶん赤旗 2019年5月2日(木)

第90回メーデー 全国294カ所 9条改憲阻止 消費税増税止める 共闘の力で希望の政治を

市民と野党の共闘の力で安倍9条改憲を阻止し、参院選で安倍政権を退陣に追い込もうと1日、第90回メーデーが全国294カ所で開かれ、15万人以上がとどいました。東京・代々木公園の中央メーデーには2万8000人（主催者発表）が参加。「命を守る憲法いかす」「消費税10%は止められる」「残業なしで暮らせる賃金に」などのプラカードを手に、都内をデモ行進してアピールしました。



(写真) 団結がんばろうをする第90回中央メーデー参加者＝1日、東京都渋谷区

を披露する労働組合員ら＝東京都渋谷区の代々木公園で

志位委員長が激励あいさつ

中央メーデー実行委員会の小田川義和代表委員（全労連議長）が主催者あいさつ（別項）。激励あいさつをした日本共産党の志位和夫委員長は、消費税増税や9条改憲、沖縄の新基地建設などをあげ、「国民のたたかいによって安倍政治があらゆる問題で追い詰められています。日本の政治を変える希望は大いにあります」と強調。32の参院選1人区で野党候補の一本化を実現し、「共闘の力で『安倍政治サヨナラ』の審判を下し、希望ある新しい政治をつくろう」と訴えました。

連帯あいさつした「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」呼びかけ人の広渡清吾さんは「国民のなかに憲法9条を守り実現する大きな力をつくりだそう」と呼びかけ。日比谷メーデー実行委員会から全労協の中岡基明事務局長が連帯あいさつし、「元の生活を返せ・原発被害いわき市民訴訟」原告団長の伊東達也さんが被災地切り捨て政治の転換を訴えました。

参院会派「沖縄の風」の糸数慶子代表、メーデー発祥地の米国・シカゴの労働者がメッセージを寄せました。

各労組の代表が「日本人も外国人も安心して暮らせる産業をつくろう」（東京土建）、「ハラスメントを人権侵害と位置付けるILO条約の批准を求める」（国公労連）と決意表明しました。

東京・足立区職労の男性（56）は「人員削減され災害などが起きたときに対応できるか不安です。市民が安心して暮らせる生活を保障するためにも政治を変えたい」と話しました。

安倍政治に代わる政治を 小田川代表委員 主催者あいさつ



(写真) 主催者あいさつする小田川義和代表委員＝1日、東京都渋谷区

主催者あいさつした小田川義和メーデー実行委代表委員（全労連議長）は、中央メーデー90回の節目の年にメーデーの原点や歴史を思い起こし決意を新たにしようと呼びかけました。この30年間で大企業は内部留保を5倍化させる一方、労働者の平均賃金は23万円も減少したとして、「労働者から富を取り上げる大企業に怒りの目を向けなければならない」と訴えました。

元号が変わっても、富の偏在や低賃金・長時間労働、付度（そんたく）政治はなかったことにできないと指摘。労働者を人として見ず、安価な労働力として外国人まで確保しようとする安倍政権を批判。「すべての働く仲間、市民と連帯し、『政治を変える一歩を夏の参院選で』『安倍政治に変わる政治を市民と野党の共闘で』と意思統一しよう」と述べ、安倍改憲阻止のたたかいに全力をあげようと呼びかけました。

しんぶん赤旗 2019年5月2日(木)

第90回中央メーデー 志位委員長のあいさつ

日本共産党の志位和夫委員長が1日の第90回中央メーデーで行った激励あいさつは次の通りです。



(写真) あいさつする志位和夫委員長

みなさん、おはようございます(「おはようございます」の声)。
私は、日本共産党を代表して、ともにたたかう決意を込めて、熱
い連帯のあいさつをおくります。(拍手)
参院選に向かう情勢—国民のたたかいによって安倍政治が追い
詰められている

参議院選挙に向かういまの情勢をどう捉えるか。

私は、情勢を大局で捉えるならば、国民・労働者のたたかいに
よって安倍政治があらゆる問題で追い詰められている、日本の政
治を変える希望は大いにある—このことを、訴えたいのでありま
す。

消費税10%増税—政権与党の中枢に動揺が始まっている

たとえば消費税10%への増税の問題です。

安倍首相の側近中の側近—萩生田(光一)自民党幹事長代行は、
「(景気が)この先危ないぞと見えてきたら、崖に向かってみんな
を連れていくわけにはいかない」と、10月の増税実施見送り
もありうると発言しました。

2014年の消費税8%への増税をきっかけに、家計消費は世
帯あたり年25万円も減っています。働く人の実質賃金は10万
円も減っています。経済指標がのきなみ悪化するなかで、政権与
党の中枢からも、増税実施への動揺が始まっているのであります。

安倍首相は、「いただいた分すべてをお返りする対策を行う」
と言います。しかしみなさん、すべて返すぐらいなら、始めから
増税などしなければよいではありませんか。(「そうだ」の声、拍手)

「暮らしの明日に希望を」—労働者のたたかい発展させよう

「暮らしの明日に希望を」—私は、これを合言葉に、労働者の
たたかいを発展させることを心から呼びかけます。

最低賃金をただちに全国一律で1000円に引き上げ、150
0円をめざそうではありませんか(「そうだ」の声、拍手)。残業
代ゼロ制度を廃止し、労働者派遣法を抜本改正し、「8時間働け
ばふつうに暮らせる社会」をご一緒につくろうではありませんか。
(拍手)

安倍9条改憲の致命的弱点—政権もろとも9条改憲を葬ろう

憲法9条改定の問題はどうでしょうか。

安倍首相の改憲への執念は絶対に軽くみるわけにはいきませ
ん。同時に、国民のたたかいによって、思惑通りに事が進んでい
ないことも事実であります。

安倍首相の改憲策動には、致命的な弱点があります。それは首
相が自ら改憲の旗振りをする—これが、憲法違反の暴挙だとい
うことであります(「そうだ」の声、拍手)。首相が旗を振らなけ
れば進まない。旗を振れば厳しく批判される。ここに深刻なジレ
ンマがあります。

この決着を選挙でつけようではありませんか。参議院選挙で

「安倍改憲ノー」の審判をつきつけ、安倍政権もろとも9条改憲
を葬ろうではありませんか。(拍手)

衆院補選で「新基地ノー」のトドメの審判—解決の道は安倍政権
の打倒

沖縄の新基地問題でも、追い詰められているのは安倍政権の側
であります。

衆院沖縄3区補選で、「オール沖縄」の屋良朝博さんが、「辺野
古推進」を公然と掲げた自民党候補を大差で打ち破ったことは、
「新基地ノー」のトドメの審判になりました。

沖縄の基地問題の解決の道は簡単明瞭です。安倍政権を倒すこ
とではないでしょうか。(「そうだ」の声、拍手)

沖縄と本土の連帯、市民と野党の共闘で安倍政権を倒し、辺野
古新基地を断念に追い込み、普天間基地を無条件で撤去させよう
ではありませんか。(拍手)

共闘の力で「安倍政治サヨナラ」、希望ある新しい政治をつくら
う

みなさん、政治を変える希望は共闘にあります。

連休明けの早い段階で、参議院選挙で32の1人区すべてで野
党候補の一本化を必ず実現し、共闘の力で「安倍政治サヨナラ」
の審判を下し、希望ある新しい政治をご一緒につくろうではあり
ませんか。(拍手)

第90回メーデー万歳! ともにがんばりましょう。(拍手)

共産・志位氏「安倍政権もろとも9条改憲を葬ろう」

産経新聞 2019.5.1 17:26

共産党の志位和夫委員長は1日、都内で開かれた全労連系の第
90回中央メーデー式典に出席し、安倍晋三首相が意欲を示す憲
法9条改正について「首相自ら改憲の旗振りをすることが憲法違
反の暴挙だ。改憲は首相が旗を振らなければ進まず、振れば厳し
く批判される。ここに深刻なジレンマがある」と強調した。その
上で「参院選で『安倍改憲にNO』の審判を突きつけ、安倍政権
もろとも9条改憲を葬ろう」と訴えた。

志位氏は式典終了後、天皇陛下のご即位に祝意を示す国会の
「賀詞」への党対応を記者団に問われ、「1日に発表した『新天
皇の即位に祝意を表します。象徴天皇として、新天皇が日本国憲
法を尊重し擁護することを期待します』という談話の立場
で対応したい」と述べるにとどめた。

しんぶん赤旗 2019年5月2日(木)

アジア各国でメーデー 非正規職 全廃を 韓国

アジアの各国で1日、労働者の権利擁護、賃上げなどを訴える
メーデーの集会やデモが行われ、多数の労働者や市民が参加しま
した。

バイク便労働者 ユニオン初結成



(写真) 1日、ソウル市内で記者会見する

ライダーユニオンの人たち(ライダーユニオンのフェイスブックから)

韓国では全国各地でメーデーの行事が取り組まれ、ナショナルセンターの一つ全国民主労働組合総連盟(民主労総)は、ソウル中心部で集会を開きました。現地からの報道によると2万7千人が参加し、非正規雇用の撤廃や最低賃金の1万ウォン(約1000円)への引き上げ、国際労働機関(ILO)条約の中核的労働基準の批准などを訴え行進しました。

キム・ミョンファン委員長は、「非正規職は、賃金差別・雇用差別・身分差別という新しい身分制になり、極端な格差社会の原因になった」と指摘し、「非正規職を完全に撤廃しよう」と訴えました。

また、キム委員長はILOの全加盟国に批准が求められている中核的労働基準8条約のなかで、結社の自由や団結権の保護、団体交渉権についての条約などが未批准となっていることをあげ、「ILO中核条約の批准は、もはややり過ぎしたり、譲歩したりすることはできない」と強調。政府がねらう変形労働制の拡大と、最低賃金制度改悪の阻止などのために「団結し、闘争しよう」と呼び掛けました。

この日は、飲食物や書類などをバイクで配達する運転手たちがライダーユニオンを結成し、国会前で記者会見しました。参加者は「休まず働いても月収は100万ウォン(約10万円)ほど。副業せざるをえない」「けがをしても労災が下りなかった。私たちは配る機械ではない」などの実態を説明。パク・ジョンフン委員長は「処遇改善に向け力を尽くす」と決意を述べました。(栗原千鶴)

FM 仙台アナ・石垣のりこ氏、参院選に擁立 立憲宮城県連が決定

毎日新聞 2019年5月2日 10時45分(最終更新 5月2日 10時45分)

立憲民主党宮城県連は1日、仙台市内で臨時幹事会を開き、今夏の参院選宮城選挙区(改選数1)で、エフエム仙台アナウンサーの石垣のりこ氏(44)を擁立することを決めた。県連は近く党本部に公認を申請する。石垣氏はラジオの仕事を通じて、ものを決める場(国会)に震災被災者らの声が届いていないと感じたとしたうえで、「私だからこそできる何かがあると腹を決めた」と決意表明した。

石垣氏は仙台市宮城野区出身。宮城教育大教育学部を卒業後、エフエム仙台に入社。出馬にあたり、4月30日付で同社を退職した。

宮城選挙区では自民党現職と共産党新人が立候補を表明しているが、岡本章子県連代表は「1人区なので他の野党との候補者一本化のために最善の努力をしていきたい」と述べた。【吉田勝】

現職の糸数慶子氏、参院選で高良鉄美氏を支援 今後の国政へ意欲も

沖縄タイムス 2019年5月1日 14:45

夏の参院選で立候補辞退を表明している現職の糸数慶子氏(7

1)は4月29日、社大党から要請を受けて出馬を決めた琉球大法科大学院名誉教授で憲法学者の高良鉄美氏(65)の支援を、改めて表明した。候補者選考のやり直しを求める市民らでつくる、「県民の声」100人委員会が那覇市内で開いたシンポジウムで語った。



糸数慶子氏

糸数氏は「ここに高良氏が来ていれば握手をしてバトンタッチしていた。県民同士が争い一番喜ぶのは誰かを考え、一つになって戦おう」と述べ、後継候補として立候補する高良氏を支える考えを示した。

一方、「政治家としての活動は終わりではない。県民から声が掛かればしっかりと受け止めていきたい」と語り、今後の国政選挙への挑戦に意欲を示した。

国政野党の一部政党から、出馬などの打診を受けていることも明らかにした。

【野党ウオッチ】平成最後の野党キャップが選ぶ「珍事件」ベスト5 会食ドタキャン騒動、深夜の泥沼バトル…

産経新聞 2019.5.2 07:0

1日付の人事異動で政治部の野党担当キャップを離れ、水戸支局次長に着任した。政党の再編に向けたうごめきや国会での与野党攻防…。さまざまな政局の主役や脇役たちの顔が思い浮かぶ。約1年半の野党キャップ時代を振り返りつつ、独断で選んだ「珍事件」ベスト5を挙げてみたい。

野党キャップに就いたのは平成29年12月だった。分裂した民進党の出身者の中で再結集を模索する動きが起き始め、今夏の参院選での野党共闘の大きな焦点になるであろう「相互推薦・支援」の方針を共産党が打ち出した時期である。

第5位 赤旗が「裏切ったら許さない議員リスト」

共産党機関紙「しんぶん赤旗」が30年1月16日付の紙面で、当時の民進党と希望の党の統一会派結成構想に絡み、過去の国政選挙で野党統一候補として戦うなどした民進党議員16人の氏名を挙げて「統一会派に加わるとなると裏切りになる」と論評した。

安全保障法制の廃止などを民進、共産など野党党首が合意してきた経緯に照らせば、異なる立場を掲げて衆院選を戦った希望の党と組むことは背信である、というのが共産党の主張だ。

もともと、民進、希望両党はのちに「国民民主党」として合併し、現在は国会活動や選挙で共産党と協力関係にある。リストには、国民民主党の平野博文幹事長、原口一博国対委員長ら幹部の名前も含まれていたが、どこかで「裏切り」への許しは受けたのだろうか。

第4位 合併後の党名は「新党ゼロ」!?

その国民民主党の結成の際には「中道民主党」「民生党」など

多くの党名案が候補として検討された。その中でも異彩を放っていたのが「新党ゼロ」だ。

30年5月の結党直後の産経新聞社・FNN（フジニュースネットワーク）合同世論調査での国民民主党の支持率は1・0%で、前月調査の旧2党支持率の合計値を1・9ポイントも下回ったが、ひとまず「支持率ゼロ」は回避できた。

第3位 玉木代表の会食ドタキャン騒動

同年9月の国民民主党代表選を制した玉木雄一郎代表は、野党第一党・立憲民主党とはもちろん、与党とも一線を画した独自の党運営を模索してきた。立ち位置に悩むのは野党第二党の常である。

そんな中、玉木氏が11月6日夜に予定されていた自民党の二階俊博幹事長らとの会食を欠席し、永田町で話題になった。

複数の関係者によると、会食は玉木氏の党代表就任祝いとして計画され、6日になって玉木氏の欠席が決まったという。これに伴って二階氏も参加を見送り、自民党の林幹雄幹事長代理、国民民主党の増子輝彦幹事長代行ら5人で会食が行われた。

自民党への接近とも映る会食を避けた玉木氏の判断が野党側から歓迎されたなら救いはあったが、「ドタキャンするなら約束するな」（立憲民主党幹部）と冷ややかな反応が大勢を占めた。自民党と野党双方の顔色を気にした結果、いずれの信頼も失った形だ。

「対決より解決」路線を掲げたものの、その掛け声が野党共闘に水を差しかねないとみるや「対決も解決も」と修正する一。そんな国民民主党の腰の定まらなさを象徴する騒動だった。

第2位 自民党大阪府連が「維共共闘」ポスター

「野党の珍事件」という本稿の趣旨にはそぐわないが、ある意味で「野党より野党らしい」迷走ぶりを披露してくれたのが自民党大阪府連である。

日本維新の会が完勝した今年4月7日の大阪府知事・大阪市長ダブル選の際、自民党府連は「自共共闘？ 維共共闘の間違いでしょ！」というフレーズに安倍晋三首相＝党総裁＝の顔写真を添えたネット用ポスターを作成した。

自民党推薦候補に対する共産党の応援を「自共共闘」と批判する維新陣営に対抗し、維新が共産党をはじめとする他の野党とともに今年度予算案に反対したことを根拠に「維共共闘」を印象づけようという戦略だった。ところが、この策は官邸を激怒させるだけに終わり、府連は失笑的となった。

維新はダブル選を、党創設者である橋下徹元大阪府知事の登場以降の「維新政治の10年」への審判をあおぐ選挙と位置づけて戦った。ならば自民党府連は維新政治の負の部分にこそ焦点を当てて応戦すべきだったはずだ。

「維共共闘」を流布すれば票になると読む政治センスには言葉を失う。

第1位 国由合併で6時間半の泥沼バトル

平成最後の新党結成となったのが国民民主党と自由党の合併だった。曲折の末、自由党を吸収合併して4月26日に新・国民民主党が発足した。

合併合意書の調印に先立つ国民民主党の両院議員懇談会は、合

併の了承取り付けを目指す執行部側と慎重派の階猛（しな・たけし）憲法調査会長らが応酬を繰り返して、25日午後6時半ごろから26日午前1時ごろにかけて約6時間半に及んだ。

階氏が『『大きな固まり』につながるのか。納得いく回答が得られていない』と合併への疑問を唱えたかと思えば、足立信也参院議員は、自由党側との会談結果を口頭で報告した玉木氏に「詰めが甘い。合意事項の紙が必要だ」と不満をぶちまける一。「国民にしっかりとまとまる姿を見せたい」という玉木氏の呼びかけがむなしく響いた。

執行部側が合併の可否の採決に持ち込もうとすると、階氏は「希望の党の政策を作ったときは（議論を）朝4時までやった」。

やれやれ…。午前1時で終わったのは、むしろ「早期決着」と受け止めるべきなのかもしれない。

政治部を去る直前、これぞ野党政局と呼ぶにふさわしい泥沼バトルに接することができたのは、野党ウオッチャーとして至福の限りだ。

（松本学）

「#自民党 2019」プロジェクト開始 若者に狙い 令和時代の新広報戦略

毎日新聞 2019年5月1日 16時44分(最終更新 5月1日 16時44分)

自民党は1日、若者をターゲットにした令和時代の新たな広報戦略「#自民党 2019」プロジェクトを開始した。ソーシャルメディアを活用し、映像やファッションを通じた発信で若者を引き付ける。安倍内閣への若年層の支持率が高年層より高い傾向があることに目を付け、支持基盤を拡大するのが狙いだ。夏の参院選も意識する。

「ユーチューブ」には、10代のアーティストやダンサーらによるプロモーションを展開する党公式動画を投稿。安倍晋三首相も登場し、共に新時代を切り開くイメージを打ち出す。

甘利明選対委員長は「音楽やスポーツのように政治を身近に感じてほしい」と期待する。（共同）

「衆参同日選の状況にない」 自民総務会長

日経新聞 2019/5/1 10:30

【ヘブロン（米ケンタッキー州）＝加藤晶也】訪米中の自民党の加藤勝信総務会長は30日（日本時間1日）、夏の参院選に合わせた衆参同日選に否定的な見方を示した。同行記者団との懇談で語った。「安倍晋三首相も『頭の片隅にもない』と言ってきた。衆参同日選をするような状況にはない」と語った。解散総選挙の時期に関しては「常在戦場というのは衆院議員としては当然の心構えだ」と述べた。

10月に予定通り消費税率を10%に引き上げるべきだとの認識も示した。「現時点でリーマン・ショック級の経済的な変動を引き起こす状況には全くない。10月の引き上げに向けて粛々と準備を進める状況にある」と指摘した。

首相の後継「ポスト安倍」の一人に浮上していることを巡っては「政治家としてより幅を広げていく努力はしていく。新たな時代

に新たな気持ちでがんばっていきたい」と述べるにとどめた。

しんぶん赤旗 2019年5月2日(木)

在日米軍 トリステーション・嘉手納・横田 特殊部隊施設建設相次ぐ

日本に駐留する米軍特殊作戦部隊のための施設建設が相次いでいます。米陸軍第1特殊部隊群第1大隊(通称・グリーンベレー)が駐屯するトリステーション(沖縄県読谷村)には、同部隊の使用車両や武器を整備するための施設建設を予定。3月25日には、同施設の建設事業を福岡市に本社のある大手電気工事会社が、18億9000万円で落札しました。



(写真) 嘉手納基地配備のMC 130J コマンダーII

米軍の特殊作戦部隊は、紛争地域や敵地深く侵入し、現地部隊の訓練、捕虜などの救出、敵対勢力の拠点の急襲、要人の拉致・暗殺など危険な任務を行う部隊。日本が、米軍特殊作戦部隊のアジアでの拠点にされようとしています。

トリステーションに建設を予定しているのは、特殊作戦部隊用の戦術装備品整備複合施設(TEMF)です。トラック1台の整備ができる整備用駐車場2面、武器や部品の備蓄施設などを備え、整備作業に21~44人があたります。



(写真) 横田基地で繰り返される米軍特殊作戦部隊や海兵隊のパラシュート降下訓練=1月15日

米特殊作戦軍の18会計年度軍事建設事業計画では同施設の建設について、「世界各地での実際の演習や、従来型・被従来型・特殊・非正規の戦争の想定で、継続的に作戦、訓練、展開する部隊を支援する」と説明。沖縄駐留のグリーンベレーがインド・太平洋地域での軍事作戦を実施するための施設であることを裏付けています。

米空軍の特殊作戦機CV22オスプレイ5機が昨年配備された横田基地(東京都)ではすでに、滑走路西側の2個の格納庫の改修や6機分の駐機場設置などの設備整備を完了。5機の追加配備にむけてさらに、滑走路東側に整備格納庫、作戦を指揮する特殊作戦群司令部施設、訓練用シミュレーター、駐機場などの専用施設の建設が2022年完成予定で計画されています。

米軍嘉手納基地(沖縄県)では、同基地の空軍第353特殊作戦群に15年までに6機配備された特殊作戦輸送機MC130J コマンダーIIの整備格納庫、敵地に潜入し攻撃目標の座標を攻撃機・爆撃機に伝える第320特殊戦術中隊のための訓練施設

の建設が計画されています。

横田基地に配備されたCV22オスプレイが全国で訓練を実施し、韓国や東南アジア方面で作戦行動するなど、日本を拠点にした米軍特殊作戦部隊の訓練・作戦行動が激しくなっており、施設面での態勢づくりが進められています。(佐藤つよし)



〈重荷を負うて道を行く 翁長雄志の軌跡〉9 第2部 政界へ市幹部の汚職 徹底追及

琉球新報 2019年5月2日 07:00

那覇市議に初当選して3年後の1988年、翁長雄志は浦崎唯昭、安里仁愛(じんあい)ら3人と共に、それまで所属していた自民党系の野党会派「新政会」を離れた。4人は新たな野党会派「清風会」を設立し、浦崎が会長となった。この年の那覇市議会は市幹部による汚職問題に揺れていた。公共工事の不正発注を巡り当時の建設部長ら市幹部2人が逮捕されるという異例の事態だ。清風会を設立した4人は、市議会に設置された100条委員会「公共工事の発注に関わる調査特別委員会」のメンバーだった。会派の設立目的に「公務員にあるまじき行為を徹底追及する」などを掲げ、独立した立場で当局を激しく追及した。市議会12月定例会は初日から、野党が...
この記事は有料会員限定です。

〈重荷を負うて道を行く 翁長雄志の軌跡〉8 第2部 政界へ日の丸、君が代巡り紛糾

琉球新報 2019年5月1日 07:00

那覇市議に初当選した翁長雄志は、自民党を中心とした保守系議員でつくる野党会派「新政会」に所属した。同じ会派には同期当選の浦崎唯昭(いしろう)がいた。浦崎は那覇市議を務めた父・唯治(いじ)が雄志の父・助静の那覇市長選を支援したこともあり、助静や雄志の兄・助裕とも親交があった。自然な流れで活動を共にした。翁長は那覇市大道出身だが浦崎の地盤は前島。市議選の際、真和志にある浦崎の同級生の家を雄志が訪ねたことがあった。選挙後、雄志は「ごめんね、唯昭さん。同級生の家に行ってしまったよ。分からなかったさ」と言ってきた。同級生の家は「浦崎唯昭連絡所」の看板が出ているため、分からないはずはない。浦崎は「自分の地元なのだから気にせず行けばいい。黙っていても一向に構わなかったが、そういうことを隠さずに来てくる人だ」と雄志の人柄について語る。雄志や浦崎ら複数の保守系新人が当選し、親友康晴市長の革新与党は少数となって

いた。野党は攻勢を強め、さまざまな議案を巡って議会は紛糾、空転した。1985年の市議会で特に荒れたのは9月30日、市議会9月定例会最終日だ。雄志たちの新政会が提案した「日の丸...

この記事は有料会員限定です。

平成から令和へ「真のオール沖縄で国は動く」稲嶺恵一元沖縄県知事インタビュー 普天間基地辺野古沖合移設を「苦渋の選択」で受け入れ

琉球新報 2019年5月1日 11:35

沖縄県経営者協会会長を経て1998(平成10)年から2期8年にわたり県知事を務めるなど、激動の平成の県内政治・経済に携わった稲嶺恵氏。知事時代は政府との協調路線で沖縄サミット開催をはじめ振興策を導き、米軍普天間飛行場の返還問題では15年使用期限や軍民共用などの条件を付けた「苦渋の選択」で辺野古沖合への県内移設を受け入れた。だが、政府は2006年に稲嶺氏の条件をくんだ沖合案の閣議決定を覆すと、V字形滑走路を持つ沿岸案の決定を強行。基地問題のかじ取りの難しさに直面した。新時代「令和」を迎えるに当たり話を聞いた。...

この記事は有料会員限定です。

テント除去通知から1週間 高江ゲート前は今

琉球新報 2019年5月2日 10:26



N1ゲート前のテント等の除去を呼び掛ける防衛局の警告文=1日、東村高江

【東・国頭】沖縄県東村と国頭村にまたがる米軍北部訓練場N1ゲート前の抗議テントなどの設置を巡って、市民らが泊まり込みで米軍による撤去の警戒を続けている。沖縄防衛局が米軍訓練場の施設内であることを理由に、市民らに対し4月25日までにテントを除去するよう警告してから2日で1週間が経過したが、1日午後2時時点で撤去などの動きは確認されていない。4月3日には米軍が実際に撤去したこともあり、市民らは警戒を強めている。

同訓練場のヘリコプター着陸帯に反対する市民らはこれまで、N1ゲート前の県道70号沿いにテントなどを設置し抗議行動の拠点としていたが、米軍が4月3日早朝に突然これらを撤去した。その後市民らは同じ場所に再び置いていたが、4月19日に「25日までに除去しない場合には米軍が撤去する」といった内容の防衛局の警告文が張られているのが確認された。

通告期日の25日、上京した東村の伊佐真次村議らは防衛省や外務省に対し、米軍側にテント撤去通知を取り下げるよう要請した。

防衛省の担当者は要請を米側に伝えると説明した一方、日米地

位協定で米側が施設区域内での運営や警備、管理などのため「必要な全ての措置を執ることができる」と規定していることを挙げ、テント撤去に問題はないとの認識を示した。

25日以降、市民らは夜通しで座り込み、警戒に当たっている。

高江区の伊佐育子さん(58)は「テントにはこれまでの抗議運動のつなぎ目がある。撤去することは、沖縄の基地はいらない」という意思をねじ伏せるものだ」と話した。

デニー知事、「令和」へ決意 島の鼓動・人の輝き引き出す

沖縄タイムス 2019年5月1日 08:56

玉城デニー知事は「令和」の時代を迎えるに当たり、「県民の暮らしを支え、教育、子育てなどの不安がなく、安心して、子どもたちを笑顔で育ていけるような環境であってほしい」と語った。「平成」最後の記者会見となった4月26日、記者団の質問に答えた。



記者会見する玉城デニー知事=4月26日、沖縄県庁

また「平成は戦争のない時代だった」と振り返り、「沖縄の伸びしろをさらにずっと伸ばしていくために、そしてこれからも戦争しない、戦争を起ささないために、平和の緩衝地帯として世界に恒久平和を発信していく」と意欲を示した。

玉城知事は昨年9月の知事選で、「新時代沖縄の到来」を前面に打ち出した。任期中に平成が終わり、新たな時代が幕を開けることを意識してきた。

2022年には沖縄返還から50年を迎えることもあり、知事選では「島々の鼓動を、人々の輝きを、限りない沖縄の可能性を、存分に引き出し、発信する志と力が新しい知事には求められている」と訴えた。

玉城知事が掲げる「新時代沖縄」の具体像では、国際物流拠点となる空港や港、公共交通システムの充実、世界中から集まるクルーズ船への対応、世界最先端の健康・医療産業の展開などを見据える。「沖縄の可能性を引き出し、その先に未来が広がる」と強調する。

さらに、「アジアのダイナミズムを取り入れ、得られた原資を県民の豊かな生活のために還元していく」ということが新時代沖縄のイメージとする。

「令和で基地問題解決を」新時代の平和に祈り、変わらぬ爆音... 平成最後の沖縄

琉球新報 2019年5月1日 10:03

30日、沖縄県民はそれぞれの思いで平成最後の日を迎えた。激動の時代を象徴する地で、ある人は年月の流れに思いをはせ、ある人は苦難の歴史を振り返り、ある人は新しい時代に希望を抱いた。令和への時を刻む県内各地の表情を切り取った。

<平和祈念公園> 「令和で基地問題解決を」



清明祭のために、家族の名前が刻銘された礎を訪れた山内清順さん(左)とカツ子さん=30日午後2時半ごろ、糸満市の平和祈念公園

薄い雨雲が広がり始めた午後2時半ごろ、糸満市摩文仁の平和祈念公園には、平和の礎の前で手を合わせる家族連れが目立った。

清明祭のために読谷村から夫婦で礎を訪れていた山内清順さん(76)は、礎に刻まれた家族の名前を指さしながら「改元したって何も変わらない。まだ基地問題が解決していない。平和とは言い切れない」と話した。「それでも時代の節目として振り返れば、平成の沖縄は強かった。心折れずに、選挙や県民投票で何度も民意を示した」

きっぱりと言い切った清順さんを見て、妻のカツ子さん(75)は「刻銘された家族や友人に『基地問題は解決されたよ』と報告できる日がくるといいよね。令和の早いうちに」とほほ笑んだ。<北谷町美浜>変化する街並み 響き続ける爆音



街を行き交う観光客や地元客ら=30日午後、北谷町美浜

大型連休に入り、国内外の観光客や地元客らで一層のにぎわいを見せる北谷町美浜。海岸線にはホテルや商業施設が連なり、好調な沖縄の観光業の一端を担っている。米軍のメイモスカラー射撃場が1981年に返還後、行政と民間が一体となった同地区の開発構想が打ち出されたのは94年のこと。米国西海岸のサンディエゴを思い描いた街づくりは、現在も進行中だ。

午後2時ごろ、家族で訪れた小波津るいさん(33)=沖縄市=は「平成最後におしゃれな服を買いに来た」と声を弾ませた。「何もない場所から年々おしゃれな街になり、観光客も地元も集まる中部の中心地。沖縄の底力を感じる」と誇る。

変化する街並みの一方で、変わらない風景もある。午後2時すぎ、米軍嘉手納基地から戦闘機が離陸。街には爆音が響いていた。<名護市辺野古>工事なく静か 住民思い語る



平成最後の30日、座り込み抗議

は1759日を迎えた=名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブのゲート前

新基地建設が進められている名護市辺野古の海は正午、工事がなく静かだった。人のいない抗議テントでは建設断念を求めて続く座り込みの日数「1759日」を示す表示板が、道行く人にその歴史をひっそりと伝えている。辺野古区民にとって「平成」は普天間飛行場移設問題に翻弄(ほんろう)され続けてきた時代だった。

金城武政さん(62)は、平成を「混乱と不安で低迷した時代」と振り返る。「基地問題で地域の和を崩されてしまった。大事なものは何か、今一度振り返る時だ」と話し、自然豊かだった昔の故郷の姿に思いをはせた。

「基地問題はいつ終わるのかね。ぼんやりと集落を眺めていた70代男性はこぼした。最近移設はやむを得ないと考えるようになった。「選挙やっても何やっても変わらない。新しい時代になっても同じことを繰り返すことに意味があるのか分からない」。たばこの煙とともにぼつりと心情を吐き出した。

<首里城>にぎやかな最後、観光客「記念になる」



守礼門前に集まる観光客=30日午後、

那覇市首里

那覇市内にはにぎやかな平成最後の日を迎えた。1992年(平成4年)に復元された首里城や守礼門前は国内外から訪れた観光客でごった返した。大阪府から訪れた藤原順子さん(66)、元吉さん(70)夫妻は娘家族と参観を終えて帰ろうとしていた。順子さんは約40年ぶりの来県で「首里城は見違えるように変わった。平成最後で記念になる」と笑った。

<宮古島市>宮古ブルー背景に写真撮影



伊良部大橋と海を背景に、写真を撮る観光客ら=30日午後、宮古島市の伊良部大橋

2015年に開通した伊良部大橋には、年間を通して多くの観光客が訪れる「宮古ブルー」の海と空をバックに写真撮影やドライブを楽しんでいる。午後4時半ごろも、撮影に夢中になる観光客らの姿が見られた。初めて宮古島を訪れた中田春美さん=神奈川県=は「平成最後と、令和最初の日を宮古島で迎えられるのは、とても良い思い出になる」と笑顔を浮かべた。

新天皇即位 与野党各党が声明や党首談話

毎日新聞 2019年5月1日 17時48分(最終更新 5月1日 18時07分)

与野党は1日の新天皇即位にあたり、祝意の談話を発表した。自民党が引き続き政権を担う決意を示したのに対し、立憲民主党は皇位の安定的継承という課題を指摘した。



「即位後朝見の儀」でおことばを述べられる新天皇陛下＝皇居・宮殿「松の間」で2019年5月1日午前11時14分、佐々木順一撮影

自民党

新たな時代の幕開けを国民とともによこびたい。

日本の歴史と文化伝統、四季折々の美しい自然は世界に誇るべき国民の大切な財産だ。自民党はこれからも平和な日本を守り継ぐことを誓うとともに、新しい時代がさらに輝き、希望に満ちたものとなるよう、国政運営のかじ取りをしっかりと進めていく。

(党声明)

立憲民主党

令和が、国民一人一人が幸せを実感できる平和で穏やかな時代となることを祈念する。

立憲民主党は、象徴天皇制が国民の総意に基づいて安定的に継続していくために、皇位の安定的継承をはじめ皇室、皇位に関わる重要な課題に真摯(しんし)に向き合っていく。(枝野幸男代表談話)

国民民主党

上皇さまは常に国民の思いに寄り添うことが必要だとお考えになり、実践され続けた。深く感謝申し上げる。

新天皇陛下のご即位は国民にわが国への誇りと未来への希望をもたらす。令和が平和と繁栄の時代となることを願い、国民民主党もさまざまな課題に「新しい答え」をつくっていく。国民と皇室を結ぶ敬愛と信頼の絆が一層深まることに努力を惜しまない。(玉木雄一郎代表談話)

公明党

元号に込められた願いである平和が続き、国民一人一人が明日への希望とともに個性を輝かせていけるよう新たな時代を開いていく決意だ。

公明党は、新天皇陛下のご即位を日本国及び日本国民統合の象徴として、国民とともにこぞってことほぎ、わが国と世界の人々の幸福と平和のためにさらなる決意でまい進していく。(山口那津男代表謹話)

共産党

新天皇の即位に祝意を表す。象徴天皇として、新天皇が日本国憲法を尊重し擁護することを期待する。(志位和夫委員長コメント)

日本維新の会

前の天皇陛下は常に国民に寄り添われ、国民は代々、元号とともに暮らしてきた。歴史と伝統を次の世代へ継承する責任を強く感じている。

新しい時代を切りひらくビジョンを描き、実現する。国政と地方の両輪で改革を進めるために大きな役割を果たしていくことを決意する。(松井一郎代表談話)

希望の党

新天皇陛下がいかなるときも国民の幸せを願い、国民とともにあられることと、皇室の永久のご繁栄をお祈りする。国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望する。(松沢成文代表談話)

社民党

新天皇におかれては、日本国憲法を順守し、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たされることを願う。

皇位継承や改元の政治利用は認められない。新元号の使用が強制になってはならない。(又市征治党首コメント)

天皇制、県民感情に変化 識者指摘、政治利用危惧も

琉球新報 2019年5月1日 06:00



(左から) 知花昌一さん、我部政明さん

平成の時代が終わり、新しい天皇が1日即位した。県内の識者は平成の天皇の沖縄訪問と慰霊によって、県民の天皇制に対する視座の変化を指摘する一方、令和の時代と新天皇の姿勢について注目している。

沖縄戦で住民が「集団自決」(強制集団死)に追い込まれたチビチリガマ(読谷村)の調査に携わってきた知花昌一さん(71)は、平成の天皇陛下に対して「昭和天皇の子として、制度としての天皇制を引き継いだ責任として、戦争責任を自覚していたと思う。11回も沖縄を訪れ、必ず戦争犠牲者を慰霊しているのは、その責任の現れだったと思っている」と語る。

ただ、悲惨な沖縄戦を経た戦争被害者には皇室への複雑な感情も残る。令和の天皇に対して「(平成の天皇は)戦争責任を感じ真摯(しんし)に沖縄に向き合ってきたので(皇室に)理解を示す人たちも出てきている。これからの天皇もそういった姿勢を持ち得るのかを沖縄の人たちは見ている」と語った。

国際政治が専門の我部政明琉球大教授は平成の天皇陛下について「自ら疎開を経験するなど戦時を生き、父である昭和天皇を見続けた。鎮魂のために祈ることの重みを十分に理解し、それを果たすことが責務と思われていたのではないかと。戦争体験者や遺族、被災者の元に足を運び、顔をつきあわせる陛下の姿に親しみを抱く国民も多いと思う」と指摘する。

ただ、政治と天皇の関係には苦言も呈す。「戦争体験者が減り、天皇制に疑問を持たず無関心な世代が中心となる中で、親しみの対象としての天皇の存在が際立つと政治利用が進むのではないかと」危惧した。

【電子号外】象徴の責務果たす 天皇陛下、即位儀式 国事行為で初のお言葉

琉球新報 2019年5月1日 12:00



天皇陛下は1日、皇后さまと共に皇居・宮殿「松の間」で、国事行為の「即位後朝見（ちょうけん）の儀」に臨み「憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓う」と、天皇として最初のお言葉を述べられた。

即位後朝見の儀には、安倍晋三首相ら三権の長をはじめ都道府県の知事や議長、市町村長の各代表らが参列。皇嗣（こうし）秋篠宮ご夫妻ら女性も含めた成年皇族も同席した。

陛下は「自己の研鑽（けんさん）に励むとともに、常に国民を思い、国民に寄り添う」と決意を誓った。

朝見の儀に先立ち、陛下は松の間で国事行為の「剣璽（けんじ）等承継の儀」に臨んだ。即位後初めての儀式で、陛下は皇位のしるしとされる「三種の神器」のうち剣と璽（じ）（勾玉（まがたま））を、国の印章の「国璽（こくじ）」と天皇の印の「御璽（ぎょじ）」とともに受け継いだ。皇位継承資格を有する男性皇族のみが参列し、前例に倣って女性皇族は同席しなかった。

剣璽について、政府は皇室経済法の「皇位とともに伝わるべき由緒ある物」との見解を示し、宗教性を否定している。

安倍首相「威厳あるお二人の姿に感銘」産経新聞インタビュー
産経新聞 2019.5.1 21:01

安倍晋三首相は1日、天皇陛下の即位に伴う「即位後朝見の儀」について「天皇、皇后両陛下お二人のお姿を拝見し、大変感激した。天皇陛下のご即位を心からお喜び申し上げるとともに、国民の皆さんとともに輝かしい令和の時代、一人一人の花が咲き誇る時代を切り拓（ひら）いていきたい」と述べた。

1日の「剣璽（けんじ）等承継の儀」と「即位後朝見の儀」の直後に首相公邸で行った産経新聞の単独インタビューで語った。

首相は「改めてお二人の威厳あるお姿に感銘を受けたところだ。天皇、皇后両陛下とともに、すばらしい時を刻んでいくことになる。そういう気持ちになった」とも述べた。

4月30日に行われた「退位礼正殿の儀」（退位の礼）で、上

皇さまがご在位中としては最後のお言葉を述べられたことについては「本当に無事にここまで来たという万感の思いと、感謝の思いでいっぱいだった」と振り返った。

首相は、平成28年8月に上皇さまが国民に向けたビデオメッセージで譲位のご意向をにじませられた後の政府の対応について「大変な、歴史的な責任を負ったという気持ちで、つつがなく皇位の継承が行われるよう全力を尽くしてきた」と強調した。

譲位を一代限りで可能にする皇室典範特例法の制定や、上皇さまの譲位、天皇陛下の即位に伴う一連の儀式の準備を踏まえた発言とみられる。

天皇陛下、過去5回沖縄訪問 初来県は1987年の海邦国体
琉球新報 2019年5月2日 11:08

年月日	目的	訪問市町村
1987年 9月19日 ～22日	第42回国民体育大会 (海邦国体) 夏季大会	糸満市、那覇市、宜野湾市、沖縄市、本部町、今帰仁村、大宜味村、名護市
1997年 7月15日 ～17日	第9回全国農業青年交換大会	糸満市、宜野湾市、豊見城市、沖縄市
2001年 4月21日 ～23日	第12回全国「みどりの愛護」のつどい	糸満市、本部町、名護市、北谷町、那覇市
2005年 4月8日 ～10日	第46回米州開発銀行 (IDB) 年次総会、 第20回米州投資会社 (IIC) 年次総会	糸満市、那覇市、宜野湾市
2010年 7月27日 ～29日	全高宮中学校総合体育大会	糸満市、沖縄市、那覇市

1日に即位された天皇陛下はこれまでに5回、沖縄を訪れている。

初来県は1987年9月の海邦国体（第42回国民体育大会）夏季大会の開会式に出席するため、皇太子になられる前の浩宮時代だった。沖縄県那覇市の奥武山水泳場で行われた開会式であいさつし、本部町でカヌー、大宜味村でボート競技を観覧した。

2泊3日の滞在の間には国立沖縄戦没者墓苑や県立平和祈念資料館など南部戦跡を回られ、今帰仁城跡やオリオンビール工場にも足を運ばれた。同年9月の海邦国体秋季大会では病気療養中だった昭和天皇の名代として、当時皇太子の上皇さまが出席されている。

陛下の2度目の訪問は皇太子になられた97年7月の第9回全国農業青年交換大会に出席するため、皇后さまとご夫妻での来県だった。沖縄戦没者の名前を刻んだ平和の礎、県立泡瀬養護学校（現県立泡瀬特別支援学校）なども訪問した。

2001年4月に国営沖縄記念公園で開かれた第12回全国「みどりの愛護」のつどい、05年4月に沖縄コンベンションセンターで開かれた第46回米州開発銀行（IDB）年次総会への出席でも来県。直近は10年7月に県内開催された全国高校総合体育大会「美ら島沖縄総体」開会式への出席で、皇太子としては4回沖縄を訪問している。

韓国、天皇陛下は「平和主義継承者」と好感 安倍首相と比べる誤解も

産経新聞 2019.5.1 18:03

【ソウル＝桜井紀雄】韓国では、天皇陛下が上皇さまの「平和主義」的志向を継承されているとして、好感を持つ見方が少なくない。

保守系最大手紙、朝鮮日報は1日、陛下の即位を伝える記事で「性向は平和主義と護憲という2つのキーワードに要約される」と指摘。戦争の歴史を正しく伝える大切さを指摘したご発言から「父（上皇さま）のような平和主義者の道を歩む」という立場を明らかにしたものだ」と解説した。

憲法を守るとのご発言を捉え、「平和憲法の改正を執拗（しつよう）に推進する安倍（晋三首相）とは異なる見解だ」とも主張した。

安倍首相の改憲の動きを批判する左派系紙のハンギョレは「新天皇が父のように安倍首相の暴走を牽制（けんせい）する『見えない防波堤』になるのは難しいという見方が優勢だ」と論じた。韓国では、天皇が政治と一線を画す存在だとは十分理解されず、「安倍首相の右傾化をいさめる平和的君主」という誤解した構図を描いているようだ。

朝鮮日報は、被災地で膝をついて被災者の目線で励ましてこられた上皇さまを「ひざまずく絶対者」だと指摘した上で、天皇陛下が先に複数の被災地を回られて「ひざまずき対話」を始められたとも紹介した。

知日派で知られる李洛淵（イ・ナギョン）首相は4月30日、ツイッターに天皇陛下と昨年3月にブラジルで開かれた世界水フォーラムでお会いしたとし、「かなり深い話をさせていただき、感謝申し上げます」と投稿した。「韓日両国が新しい友好関係を築けるよう、指導者たちが共に努力しよう」とも記した。

文在寅（ムン・ジェイン）大統領が上皇さまに書簡を送った際、韓国メディアが使う「日王」ではなく、正式に「天皇」と呼称したことも注目された。日韓関係改善を模索するサインとの見方も一部に出たが、政府関係者は「外交慣例上の表現で、政治的意図はない」と否定している。

「国民を思い 憲法にのっとり 象徴としての責務果たす」 天皇陛下、初のお言葉 即位後朝見の儀

東京新聞 2019年5月2日 朝刊



即位後朝見の儀でお言葉を述べる天皇陛下＝1

日午前 天皇陛下は一日、皇居・宮殿の正殿「松の間」で、皇位継承儀式の「剣璽（けんじ）等承継の儀」と、国民の代表に会う「即位後朝見（ちょうけん）の儀」に臨まれた。午後からは皇后さまとともに、上皇ご夫妻の住まいの吹上仙洞（せんとう）御所を訪ね、ご夫妻にあいさつ。皇嗣（こうし）秋篠宮ご夫妻ら皇族や宮内庁職員から即位の祝賀も受けた。（荘加卓嗣）

陛下は、国事行為として行われた剣璽等承継の儀で、皇位の証しとされる「三種の神器」のうち、剣と勾玉（まがたま）（璽（じ））、

国印の国璽（こくじ）と天皇印の御璽（ぎょじ）を受け継いだ。三種の長と閣僚ら二十六人が参列したが、前例に倣って女性皇族は出席せず、皇族の出席は皇位継承資格のある成年の男性皇族に限られた。憲政史上女性として初めて片山さつき地方創生担当相が参列した。剣璽などは陛下のお住まいの赤坂御所に移った。

同じく国事行為として行われた朝見の儀では、陛下は秋篠宮ご夫妻ら皇族や三種の長、閣僚、地方自治体の代表ら約三百人の出席者を前に「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓います」と天皇として初めてのお言葉を述べた。隣で皇后さまが見守った。

宮殿「松の間」で行われた皇族の祝賀には、成年皇族十二人が出席した。秋篠宮ご夫妻が陛下の前に進み出て、秋篠宮さまが「ご即位されましたことを心よりお喜び申し上げます」とあいさつ。陛下は穏やかな表情で「どうもありがとう」と応じた。秋篠宮さまは皇后さまにもあいさつし、皇后さまはにこやかな笑顔で応じた。ご夫妻の長女眞子さま、次女佳子さまらが続いてあいさつした。



「剣璽等承継の儀」に臨む天皇陛下

下。手前は「三種の神器」の剣と璽（勾玉）を持つ侍従＝1日午前10時32分、いずれも皇居・宮殿「松の間」で（代表撮影）

◆お言葉全文

日本国憲法および皇室典範特例法の定めるところにより、ここに皇位を継承しました。

この身に負った重責を思うと肅然たる思いがします。

顧みれば、上皇陛下にはご即位より、三十年以上の長きにわたり、世界の平和と国民の幸せを願われ、いかなる時も国民と苦楽を共にされながら、その強い御（み）心をご自身のお姿でお示しになりつつ、一つ一つのお務めに真摯（しんじ）に取り組んでこられました。上皇陛下がお示しになった象徴としてのお姿に心からの敬意と感謝を申し上げます。

ここに、皇位を継承するに当たり、上皇陛下のこれまでの歩みに深く思いを致し、また、歴代の天皇のなさりようを心にとどめ、自己の研鑽（さん）に励むとともに、常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望いたします。

<天皇陛下> 名前は徳仁（なるひと）。1960年2月23日生まれで、幼少時の称号は浩宮（ひろのみや）。学習院幼稚園から学習院初、中、高等科を経て、学習院大文学部史学科を卒業後、同大大学院に進学。英オックスフォード大にも留学した。89年1月、昭和天皇の逝去に伴い皇太子となり、93年6月に元外交官の雅子さまと結婚した。学習院女子高等科3年の長女愛子さまと3人家族。ライフワークは水問題に関する考察で、2013年

と15年、国連本部で開かれた「水と災害に関する特別会合」で講演した。趣味はピアノ演奏と登山。

<皇后雅子さま> 1963年12月9日、後の外務事務次官小和田恒氏と妻優美子さんの長女として生まれた。85年に米ハーバード大を卒業。学士入学した東京大を中退後、87年4月に外務省に入り、日米の経済外交に携わった。86年10月、東宮御所で開かれたスペインのエレナ王女歓迎会で、天皇陛下と出会い、93年6月に結婚した。2001年12月に長女愛子さまを出産。03年12月から療養生活に入り、宮内庁は04年7月、病名を「適応障害」と公表。現在も療養が続いている。

イチから分かる天皇の歴史 古代～現代まで

日経新聞 2019/5/2 2:00

記事保存

日本の歴史を天皇抜きに語ることはできない。古代から現代へと国の中での位置づけを変えながら、天皇家は途絶えることなく続いてきた。改元を機に太平洋戦争の敗戦で「国民統合の象徴」になるまでの歴史を一望する。

■古代の天皇、実在めぐり論争続く

「日本書紀」などに記載があり、初代と伝えられるのが神武天皇。だが、2世紀ごろまでは神話の域を出ない。古代の天皇については戦後、実在性や在位期間について論争が続いている。

大王（おおきみ）の時代を経た7世紀、645年の大化の改新で本格的な中央集権国家の建設が始まった。初めて「天皇」を自称したのは天武天皇とする説が有力だ。

平安時代に入ると天皇に代わって貴族が実権を握り、摂関政治の時代となる。鎌倉時代以降は武家が政治を支配したが、天皇が歴史から排除されることはなく名目上の統治者として存続した。明治政府は大日本帝国憲法で天皇を主権者に位置づけた。太平洋戦争の敗戦後、日本国憲法は政治的権能を否定し、天皇は「国民統合の象徴」となった。

■退位は59例、上皇さまは200年ぶり

歴史上、退位した天皇は太上天皇（上皇）と呼ばれた。大化の改新を機に弟に皇位を譲った皇極天皇が最初とされる。宮内庁によると、歴代天皇のうち存命中の退位は上皇さまを含め59例。上皇さまの退位は1817年の光格天皇以来、約200年ぶりとなった。



江戸時代の皇位交代の儀式を描いた絵図。宮廷行事を記録するため明治時代に編さんされた「公事録附図」より=宮内庁書陵部提供

過去には上皇が天皇に代わって実権を握る「院政」を敷いた時期もあった。天皇に政治的権能のない現憲法下では院政のような弊害は起こらないが、新天皇よりも国民に長く敬愛されてきた上皇

さまに親しみが集まることで「権威の二重化」を懸念する専門家もいる。

退位の儀式は、9世紀に編さんされた宮廷儀式書「貞観儀式」などに基づき執り行われてきた。政府は天皇の国政関与を禁じた憲法に抵触しないように配慮し、今回の儀式の内容を決めた。

■女性天皇は10代8人

歴代天皇には女性もいた。初めての女性天皇は6世紀末に即位した推古天皇。再び皇位に就いた2人を含め、飛鳥、奈良と江戸時代に計10代8人の女性天皇が誕生した。



皇室典範に関する有識者会議では女性・女系天皇を認める報告書がまとめられた(2005年11月)

全員が天皇の皇女で男系。女性天皇や母方が天皇の血筋を引く「女系天皇」が即位したことはない。男系男子に皇位が継承されるまでの中継ぎだったとの説が有力となっている。明治時代に制定された旧皇室典範は皇位継承者を「男系男子」に限ると定め、現行の皇室典範にも同様の規定が引き継がれた。

男性皇族が減少する中、小泉政権が設置した「皇室典範に関する有識者会議」は2005年11月、女性・女系にも皇位継承を認める報告書をまとめた。翌06年9月に秋篠宮家の長男、悠仁さまが生まれたこともあり、制度化には至っていない。

■戦後に11宮家、51人が皇籍離脱

皇族で宮号を持つ家を「宮家」と呼ぶ。現在は秋篠宮家、常陸宮家、三笠宮家、高円宮家の4つがあり、天皇家を支えながら皇室の公務を担っている。



鎌倉時代の龜山天皇の皇孫、全仁親王に始まる常磐井宮が現在の宮家制度につながる前身とされる。その後、皇位継承者を確保するため世襲宮家が必要となり、江戸時代には伏見宮、桂宮、有栖川宮、閑院宮が世襲親王家となった。

明治時代には皇室の繁栄を目的に新たな宮家の創設が相次いだ。敗戦後の1947年に11宮家の51人が皇籍を離脱し、一般国民となった。

現在の宮家では秋篠宮家と常陸宮家にしか男性皇族がいない。民間人と結婚した女性皇族は皇籍を離れることになり、将来は現状の公務が維持できなくなる恐れがある。



令和の皇室と公務 「旅する象徴」 これからも

日経新聞 2019/5/1 2:00

天皇、皇后両陛下は上皇ご夫妻から多くの公務を引き継がれる。全国を旅し、国民と交流する象徴天皇のありようは今後も続いていく。ただ、皇族の数は減少が懸念されており、両陛下の子供世代は4人しかいない。天皇家と秋篠宮家を中心に公務をどう分担していくかが大きな課題になっている。

■両陛下の公務、儀式は多忙



国民文化祭が行われた大分県で、障害者アートの展示会を鑑賞する天皇、皇后両陛下（2018年10月）=共同

天皇、皇后両陛下は主な地方訪問先として、上皇ご夫妻から引き継いだ3つの行事（全国植樹祭、国民体育大会、全国豊かな海づくり大会）に加え、皇太子夫妻時代から担ってきた「国民文化祭」に出席される。

4つの行事は今後、「四大行幸啓」と呼ばれる見通しで、両陛下が各地の伝統文化や施設を視察し、国民と交流される機会となる。即位後、天皇、皇后として臨む「四大行幸啓」の第1弾は6月に愛知県で開催される第70回全国植樹祭。戦争で荒廃した山野を緑豊かな国土にすることを願い、1950年に始まった国土緑化運動の中核的な行事で、昭和天皇から上皇さまへと引き継がれた。第74回国民体育大会は茨城県で、第39回全国豊かな海づくり大会は秋田県で第34回国民文化祭は新潟県で催される。いずれも9月に開会式などの式典があり、陛下が国内外に即位を宣明される10月の「即位礼正殿の儀」など一連の即位関連儀式を前に、今秋は過密な日程が続く。

国民文化祭（国文祭）国民の文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を促すことを狙いとした文化の祭典。演劇、ダンス、音楽など様々な文化活動が披露され、「文化の国体」とも呼ばれる。文化庁長官だった作家の三浦朱門氏の提唱で昭和期の1986年に始まり、以降は各都道府県の持ち回りで毎年秋に開催。天皇陛下は第1回から出席されてきた。

■継承と新機軸



原爆死没者慰霊碑に供花する天皇、皇后両陛下

（1994年10月、広島・平和記念公園）=時事

不戦と平和を願う上皇さまが特別の思いで毎年臨まれてきたのが8月15日の全国戦没者追悼式だ。天皇ご一家もこの日にそろって黙とうし、犠牲者らに祈りをささげられてきた。式典で「お言葉」を述べる役割は上皇さまから、戦後生まれの天皇陛下に引き継がれることになる。

上皇さまの在位中に引き継がれた公務もある。「こどもの日」にちなんだ児童関連施設と、「敬老の日」にちなんだ高齢者施設の訪問だ。上皇ご夫妻の高齢を理由に2015年から天皇、皇后両陛下と秋篠宮ご夫妻で担われている。

陛下が新たな公務の軸として取り組まれているのが水に関する問題。台風や豪雨、津波などの防災を考える上で、水問題で得られた知見が国民生活の安定と発展に生かすことができるとの考えを示されている。

■象徴は国民とともに



仮設住宅を訪問し、被災者の女性の手

を取り懇談する天皇、皇后両陛下（2018年9月、福岡県朝倉市）
=共同

上皇ご夫妻は自然災害が起きるたび、全国各地の被災地を訪れ、被災者を励まされてきた。天皇、皇后両陛下も皇太子夫妻時代に被災地に足を運び、被災者らと懇談してお見舞いの気持ちを伝えられている。

両陛下がとりわけ強く心を寄せられているのが東日本大震災の被災地だ。2011年6～8月、宮城、福島、岩手の3県をお見舞いのため日帰りで訪問。13～17年にも仮設住宅や復興状況の視察で3県に2回ずつ赴かれた。こうした訪問には長期療養中の皇后さまもすべて同行された。

最近では18年9月、17年7月に発生した九州北部豪雨で最も大きな被害を受けた福岡県朝倉市を訪問。仮設住宅で生活する人たちに励ましの声をかけられた。陛下は19年2月の記者会見で被災地の復興に関して「助け合いの精神には、日本の人々の優しさや秘めた強さを見る思いがいたしました」と述べられている。

■秋篠宮さまの役割大きく



皇位継承順位1位の皇嗣、秋篠宮さまと紀子さまは天皇、皇后両陛下が皇太子夫妻時代に担った地方公務の大半を引き継がれる。両陛下が皇太子夫妻時代に担ってきた主要地方公務「七次行啓」のうち、国民文化祭を除く全国高等学校総合体育大会（インターハイ）など4つは秋篠宮ご夫妻が、献血運動推進全国大会は秋篠宮妃紀子さまが単独で、それぞれ務められる。引き継がれた公務のうち、5月に鳥取市で催される第30回全国「みどりの愛護」のつどいが、皇嗣ご夫妻として初の地方公務。



愛媛国体の閉会式に出席された秋篠宮ご夫妻（10月、ニンジニアスタジアム）=共同

秋篠宮さまはこれまで15の地方公務を含む計34の定例行事に

毎年臨んでこられた。代替わりに伴う引き継ぎで公務数が増えるため「国体閉会式」や「全国都市緑化祭」など趣旨が重複する3行事については、長女の眞子さまが担われる。その他の行事も秋篠宮さまが他の公務のスケジュール上、都合がつかない場合は出席されない。

宮内庁はご夫妻の負担を軽減するため、関係省庁などと調整し、公務負担の整理・見直しについての検討を代替わり後も続けるとしている。

■子供世代は4人

天皇家の長女、愛子さま、秋篠宮家の長女、眞子さま、次女、佳子さま、そして皇位継承順位2位の長男、悠仁さま。子供世代の4人は令和の皇室で重要な役割を担うことになる。



眞子さま



佳子さま=共同



愛子さま=宮内庁提供



悠仁さま

愛子さまは学習院女子高等科3年生。2020年春に卒業し、大学に進学される見通しだ。単独公務の経験はまだないが、両陛下の公務に同行されることもある。今後、宮内庁が初公務の時期を検討していく。

眞子さまは成年皇族として、すでに多くの公務に取り組みされている。日本テニス協会名誉総裁や日本工芸会総裁を務め、国際親善のため、南米を中心に5カ国を公式訪問された。19年7月にもペルーとボリビアへの訪問が検討されている。

佳子さまは19年3月、国際基督教大（ICU）を卒業された。進学や就職はせず、公務に取り組みされる予定だ。悠仁さまは同月、戦後の皇室で初めて学習院初等科ではなく、お茶の水女子大付属小学校を卒業。同付属中学校に進学し、勉学中心に過ごされている。

しんぶん赤旗 2019年5月2日(木)

新天皇即位の儀式 憲法の国民主権と政教分離原則に抵触

新天皇即位に伴う諸儀式が1日からはじまりました。一連の儀式が日本国憲法の国民主権、政教分離の原則に抵触するものとなっていることは重大です。

新天皇「即位の礼」で1日行われた行事は(1)剣璽（けんじ）等承継の儀(2)即位後朝見（ちょうけん）の儀(3)賢所（かしこどころ）の儀(4)皇霊殿神殿に奉告の儀—の四つです。

いずれも国家神道色が強い宗教的儀式ですが、(1)と(2)が「国事行為」（憲法に定められた天皇の行為）として行われたことは特に問題です。

「劍璽等承継の儀」は、戦前の皇位継承などの儀式を定めた「登極令（とうきょくれい）」にある「劍璽渡御（とぎよ）の儀」をほぼそのまま再現したものです。皇位のあかしとされる「三種の神器」の中の劍、璽（じ=まがたま）と国璽（国の印）、御璽（天皇の印）を新しい天皇に引き継ぐ儀式です。

憲法は天皇の地位について「主権の存する国民の総意に基づく」としています。天皇の地位は主権者国民の総意に基づくものであり、「三種の神器」の「承継」を天皇「代替わり」のあかしとする儀式を国事行為とすることは、憲法の国民主権の原則と相いれられません。神話に基づく宗教色の強い儀式を国事行為とすることも憲法の政教分離原則に抵触します。

「即位後朝見の儀」は、新天皇が即位後初めて三権の長など国民を代表する人々と会う儀式です。しかし、「朝見」とは臣下が宮中に参上して天子に拝謁するという意味です。天皇の「おことば」にたいして首相が「国民代表の辞」を読み上げるという儀式の形式も憲法の国民主権の原則にそぐわず、国事行為とすべきものではありません。

こうした問題が起きるのは、前回の「平成の代替わり」のさい、政府が昭和天皇の重体を理由に、儀式のあり方について国会での議論を拒絶し、閣議決定で戦前の旧皇室典範や登極令に準拠した儀式を決定、今回も安倍晋三政権がそれを踏襲したからです。

日本共産党は2018年3月、「代替わり」儀式について「現行憲法の精神に即して、全体として見直す」ことを提案しました。

新天皇即位に伴い、これから11月にかけて31もの儀式が行われます。それが日本社会に与える影響、天皇「代替わり」を政治利用する安倍政権のねらいに、厳しい目を向ける必要があります。（竹腰将弘）

各国メディアが「新たな時代の始まり」を報道

産経新聞 2019.5.1 23:18

天皇陛下が即位されたことを受け、世界各国・地域のメディアは、日本が「新たな時代の始まりを告げた」と報じ、陛下の来歴や人柄を紹介する記事を掲載した。

【英国】BBC放送は、オックスフォード大学に留学され、テムズ川の水運史を研究していた陛下のご経歴に触れた上で「父親とは異なり、若いころ、自分自身の学問や夢を追求する機会があった」と指摘。陛下の回顧録では、留学期間を「最も幸福な時間」だったと振り返られていたと紹介した。家族思いの一面にも触れ、「一人娘の愛子さまの子育てで積極的な役割を果たされた」と評価した。ロイター通信は1日、新元号「令和」を迎えた日本の様子を報道。深夜にカウントダウンイベントが開催されたり、花火が打ち上げられたりした盛り上がりにも触れ「お祝いムードだ」と紹介した。

【ドイツ】独公共放送ARDは、陛下が海外留学したことのある初の天皇で、皇后陛下も外交官の経験をもたれることを踏まえ、「世界的な問題に強く専心するかもしれない」とした。一方、独紙ウェルトは、陛下が皇太子時代に4度面会したというウルフ独元大統領のインタビューを掲載。ウルフ氏は陛下について「多くの本を読まれ、とても賢明な方だ。ドイツのためにも時間をいつ

も割いてくれる」と紹介した。

【米国】ウォールストリート・ジャーナル紙は30日、上皇ご夫妻が譲位前、文化活動や被災地訪問を通じて皇室をより親しみやすい存在にするよう努められたなどと紹介した。

【中国】北京紙、新京報は論評で、上皇さまについて「皇室と一般民衆の距離を近づけた」ことや「歴史を客観視し平和を守る言動」が広範な民衆から尊敬を受けたと評価。即位以来、靖国神社に一度も参拝されなかったことにも言及した。その上で天皇陛下について「父のやり方を継続するかどうか注目を集めている」とし、過去のご発言などから「令和時代になっても平和を守り、侵略戦争を反省する基調は続くだろう」と論じた。

【台湾】聯合報は陛下について「近代で唯一、戦争経験がなく、初めて海外留学した天皇」と伝えた。生物学者が多い皇族の中で陛下は交通史専攻で、水資源問題にも関心があると紹介。「世論は、温厚で礼を知る（人だ）と称賛している」と報じた。一方、台湾では上皇さまが昨年3月に日本最西端の与那国島を訪問された際、台湾の方角をご覧になっていたと報じられており、譲位に際し「心遣いに感動した」とのネットの書き込みもあった。

【韓国】保守系最大手紙、朝鮮日報は陛下の即位を伝える記事で「性は平和主義と護憲という2つのキーワードに要約される」と指摘。戦争の歴史を正しく伝える大切さを指摘したご発言から「父（上皇さま）のような平和主義者の道を歩むという立場を明らかにしたものだ」と解説した。

メルケル独首相が祝意、陛下訪独に期待

産経新聞 2019.5.1 16:15

【ベルリン=宮下日出男】ドイツのメルケル首相は1日、天皇陛下が即位されたことを受け、「衷心からのお祝いの言葉を送る」との声明を発表し、「令和」の時代も「貴国が安全と平和の下で、引き続き実りの多い発展を遂げることを願う」とした。

メルケル氏は世界が多くの課題を抱える中、日独協力の重要性を指摘した上で、「緊密で信頼に満ちた日独友好関係が陛下の関与によって一層深まると信じている」と強調。陛下が皇太子時代の2011年にドイツを訪問され、自身が2月の訪日時に会見した経緯にも触れ、「またドイツで歓迎できればとてもうれしい」と陛下が訪独されることに期待を示した。

【北京春秋】中国が希求する「統合の象徴」

産経新聞 2019.5.2 10:19

国家元首である習近平国家主席の尊厳を傷つける記事は控えるべきだ、とのクレームを中国当局者から直接伝えられたことがある。「中国も日本の天皇は批判していない」という。

2千年の皇統を背景とする天皇陛下と近代国民国家の元首を同列に論じるのは無理があるし、米国大統領だって失策や不正があれば世論に容赦なく糾弾される。中国側の主張に説得力はないのだが、1.4億人の国民を精神的に統合する“権威ある存在”を希求していることは事実だろう。

「中国社会は今、2つに分裂している」と北京の経済専門家は指摘する。豊かな層と、ぎりぎりの生活を強いられている層だ。

後者は●(=登におおざと)小平や改革開放路線を支持しておらず、貧しくとも皆平等だった毛沢東時代を懐かしむ。習近平氏の支持者が多いが「最低限の生活ができなくなれば造反する恐れがあり、党の宣伝部はこちらの層ばかり配慮している」(経済専門家)。習氏が打ち出した「強国路線」の訴求対象でもある。

中国から観察していると、日本社会も政治的立場や経済格差、世代などの対立軸によって「断絶」が進んでいるのではないかと心配になる。今回の皇位継承にあたり、国民統合の象徴として圧倒的多数に敬愛される天皇家が日本に存在することに改めて安堵と幸せを覚えた。(西見由章)